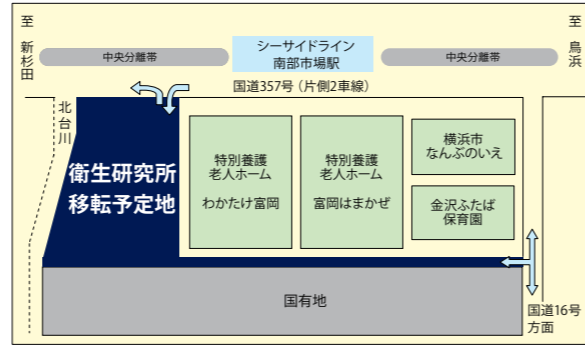


# 衛生研究所 再整備の取組について

現在の研究所は築40年以上経過し、施設の老朽化や狭あい化が課題となっています。そこで、高度かつ多様な試験検査に対応していくため、現在の研究所がある磯子区から、金沢区の旧富岡倉庫地区（シーサイドライン南部市場駅前）に移転・再整備する取組を進めています。



## 新衛生研究所イメージ図

あくまでもイメージであり、実際の施設の階層、配置等を示すものではありません。



施設の安全性を十分に確保するため、高いセキュリティ構造とします。入退室管理システムで、セキュリティを徹底するほか、検査研究ゾーンには安全実験室を設置し、施設内外の安全性を確保します。

### 整備スケジュール(予定)

平成22年度：基本設計 敷地面積：約3,850㎡  
 平成23年度：実施設計 延床面積：約7,700㎡  
 平成24年度：工事着工  
 平成26年度：開所

### 横浜市衛生研究所 概要と再整備の取組

平成23年7月発行  
 横浜市健康福祉局企画課衛生研究所再整備担当  
 〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
 電話 045(671)3662 FAX045(664)4739  
<http://www.eiken.city.yokohama.jp>



横浜市における衛生行政の中核的研究機関として科学的・技術的な面から市民の皆様の健康と安全・安心を守ります。

# 横浜市衛生研究所

## 概要と再整備の取組

### わたしたちの使命

年々増え続ける輸入食品とそこに含まれる食品添加物や残留農薬。また、海外から持ち込まれる新しい感染症や再び広がりを見せる感染症。さらには、腸管出血性大腸菌 O157 やノロウイルスなどによる食中毒など、私たちの身の回りには、健康や安全な暮らしを脅かすさまざまな危険が潜んでいます。横浜市衛生研究所は、本市衛生行政の科学的・技術的な中心機関として、保健所及び区福祉保健センターなど関係機関と連携しながら、迅速かつ的確な原因究明を行うことにより、市民の皆様の健康を守り、安全で安心して生活できるよう、日夜努力しています。



### 施設の概要

所在地	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	
敷地	延 3,457.3 ㎡	
本館	鉄筋コンクリート造/地上5階、塔屋3階 延4,037.3㎡	
別館	鉄筋コンクリート造/地下1階、地上2階 延1,065.3㎡	
附属施設	薬品庫・ボンベ庫・車庫/延 51 ㎡	
沿革	昭和31年11月	横浜市衛生検査所設置
	昭和34年3月	横浜市衛生研究所設置
	昭和43年4月	現在地(磯子区滝頭)に移転
	昭和56年11月	別館実験棟竣工、附属施設設置
	平成10年5月	現行組織への機構改革





- 感染症や食中毒などの健康危機発生時に、迅速かつ正確に原因究明を行い、保健所が行う行政処分の科学的根拠としています。
- 臨床検体、食品、水などの検査や市民からの苦情品の検査を行っています。

- 感染症や食中毒などの発生時に迅速に原因究明するため、24時間365日対応できる体制を整えています。
- 食品中の食品添加物や残留農薬、飲料水やプール水・浴場水の水質検査、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドなどのVOC(揮発性有機化合物)検査、ベビー服・家庭用洗剤など家庭用品検査、健康食品に含まれる薬物成分などの検査を行っています。
- ◎腸管出血性大腸菌 O157 やサルモネラ、結核など細菌が原因となって発生する食中毒や感染症の検査
- ◎インフルエンザやノロウイルスなどウイルスが原因となって発生する感染症や食中毒の検査
- ◎区役所に持ち込まれた昆虫・ダニ等や、食品中に混入した昆虫等を特定する検査など



食中毒菌の検査



食品添加物の検査

## 衛生研究所が行っている業務の4つの柱

試験・検査

調査・研究

研修指導

公衆衛生  
情報等の  
収集・解析・提供

## 支える組織

衛生研究所

<p>管理課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理係</li> <li>・機能強化担当</li> </ul>	<p>感染症・疫学情報課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症情報担当</li> <li>○疫学情報担当</li> </ul>	<p>検査研究課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○微生物部門 (細菌担当・ウイルス担当・医動物担当)</li> <li>○理化学部門 (食品添加物担当・微量汚染物担当・環境衛生担当・家庭用品担当・水質担当・薬事担当)</li> </ul>
--	--	---

日常の試験検査から派生した技術上の問題や行政課題を解決するための取組を行っています。

### 最近の主な調査研究成果

#### 中国産冷凍食品等 有機リン系農薬検査

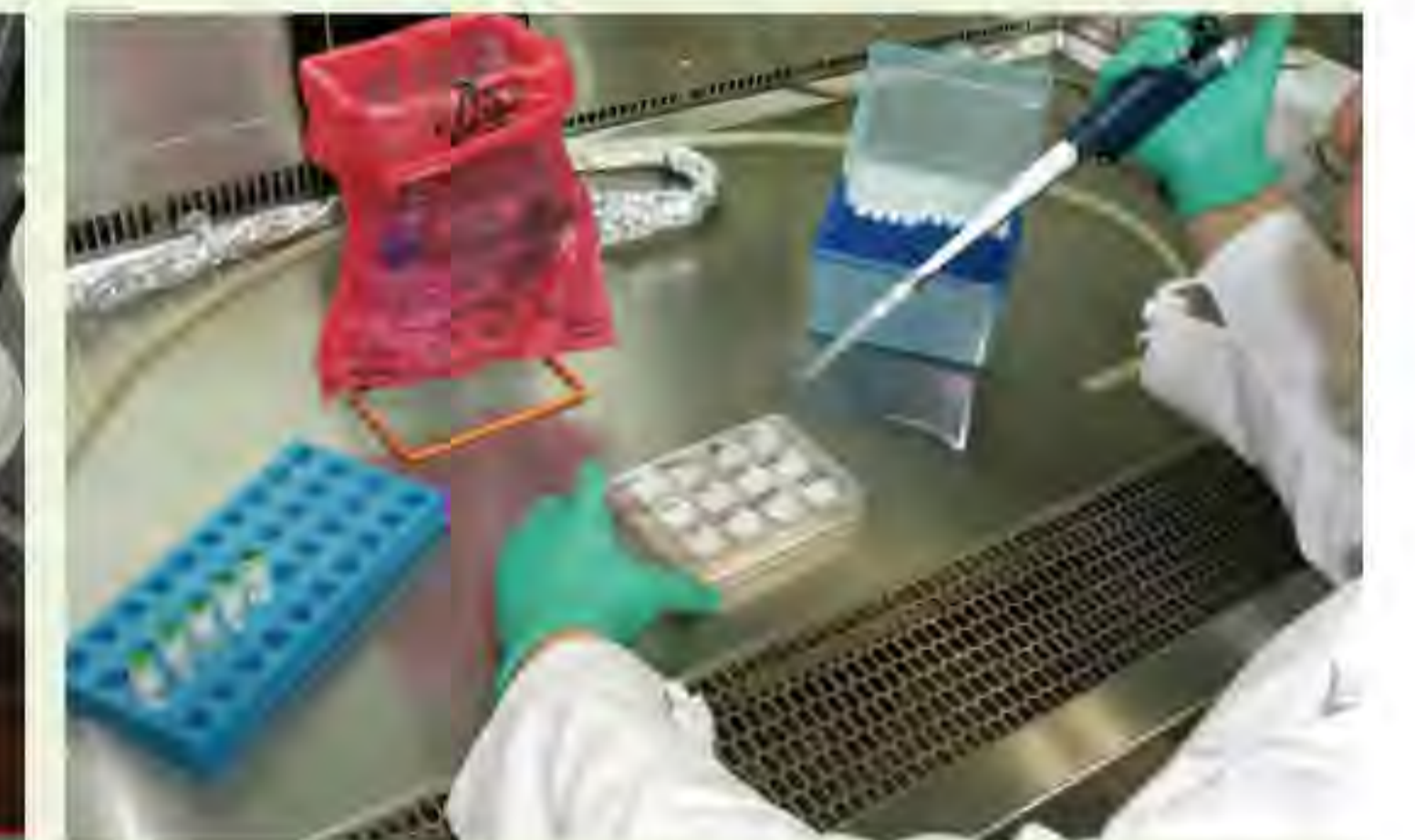
平成20年に発生した中国産冷凍餃子中毒事件では、過去の研究において農薬のメタミドホスの検査法の検討を行っていたことにより、横浜市内の事例に対して迅速に検査結果の報告ができました。

#### タミフル耐性 インフルエンザ株調査

平成20年、薬の効かないインフルエンザウイルス(タミフル耐性インフルエンザウイルス)を日本で最初に検出し、国およびWHOに報告するとともに、市内医療機関へ緊急情報提供を行いました。



メタミドホスの検査



インフルエンザウイルスの検査

感染症の流行状況等に関する情報を収集・分析し、提供しています。

区役所(福祉保健センター)等の職員、民間検査機関や学生に対する技術研修を行っています。



保健医療福祉関係者への研修会

- 主な研修テーマ(20年度)
- ◎家庭用品の有害化学物質に関する研究
- ◎細菌検査及びノロウイルス等の実習
- ◎インターンシップ研修
- ◎水試料のノロウイルス測定法等の見学及び実習

- 「横浜市感染症情報センター」として感染症患者情報を収集し、感染症流行状況を把握し、市民・医療機関等へ情報提供しています。

- 衛生研究所ホームページで市民の皆様へ公衆衛生情報を提供しています。また、当研究所で行った各種検査結果などをとりまとめた「検査情報」を発行しています。

